

絹田幸恵著

荒川放水路 ものがたり

川を掘った時代
人びとの肉声

荒川の歴史をわかりやすく、しかもていねいに足を使って調べ上げた書は、ほかにない。文句なしの名著だ。……安田浩一さん（ノンフィクションライター）

2025年10月刊

本書は『新版・荒川放水路物語』（1992年）を底本に、国土交通省荒川下流河川事務所との協力のもと現在までの変化などの補注・補章を加え、復刊したものです。

定価●本体**3000円**+税
A5判上製／272ページ／C0021
ISBN978-4-8118-0869-7



明治43（1910）年大洪水
各所で堤防が決壊し、熊谷から浅草まで
広く水びたしとなった 提供：下川林之輔氏

徳川幕府の利根川東遷・荒川西遷工事により、江戸の大動脈となった荒川（隅田川・大川）。大きな繁栄をもたらした一方で、毎年のように洪水で多数の犠牲者を出す暴れ川でもあった。明治末の大洪水を契機に、人と街を守るため24kmの大放水路が計画される。

19町村の1300戸にふってわいた立ち退き、工事をめぐる軋轢、そして震災。教え子の疑問に触発された著者が、20年ちかくにわたって地域の生き証人から聞き歩き、資料を渉猟して再現した人と川のものがたり。

絹田幸恵（きぬた・ゆきえ）●1930年、朝鮮に生まれる。家族は2歳のときに岡山県に帰郷。1950年岡山大学教育学部を卒業、小学校教員となる。1957年より上京、東京・足立区で教員となる。1972年ごろから、地域を歩いて住民の話を聞き、工事事務所など

をたずね、荒川放水路の歴史を授業にしてきた。1988年に教員退職後、それらの記録をまとめ、『荒川放水路物語』（新草出版）として出版。平成3年土木学会・出版文化賞を受賞。1992年よりパーキンソン病を発症。2008年、肺炎により死去。



放水路の予定地となったため、
コロでひく準備をしている家
現在の墨田5丁目付近

父親とふたりで元宿から千住龍田町へ、一日に何回も荷車を引いて引越しをした。もう二度と引越しはしたくないと思った。（宇田川元造さん）



工事はまず人力で河川敷を押しならし、
ついで掘削機が水路を掘っていった
提供：国土交通省 荒川下流河川事務所

掘削機と土運車の動きを見てい
ると、合理的で、しかも面白かつ
た。（矢萩三保三さん）



放水路の土手は子どもたちのかっこうの
遊び場となった（昭和29年11月）
『写真で見る足立区40年のあゆみ』より

荒川大橋付近に赤羽水泳教習場があった。対岸まで往復できると一級の免状がもらえた。水あびに疲れたあとの三銭のカキ氷の味が忘れられない。（渡辺肇さん）

1 ● 荒川の歴史

- 1 荒川のすがた
- 2 利根川・荒川の移り変わり
- 3 荒川のおもな洪水
- 4 熊谷堤

2 ● 明治末期の大洪水

- 1 明治四〇年の大洪水
床の上でさざ波 住民が堤の上でにらみ合い
- 2 明治四三年の大洪水
坝を閉じて炊き出しを 洪水を知らせる寺々の鐘
飲み水をもらいに舟で 流されていく家
平方電報 農業用の舟で逃げる
千住の町と天皇の勅使 電話を堤の桜につす
軍も出動した向島・本所・深川 農家は種籾さえもなく
免租の願いと炊き出しの報告

3 ● 荒川放水路開削が決まるまで

- 1 東京市議会・帝国議会でのようす
- 2 放水路の位置と陳情書
- 3 内務省の放水路計画

4 ● 用地買収から立ちのきへ

- 1 千住土地収用所のはたらき
- 2 江北村
江北村の調査と買収 水場は安く買収された
墓もいっしょに越した
- 3 西新井村
とりあえず立ちのき 通帳を見ては歎いた
- 4 千住の北をまわって
千住元宿の人たちと感旧碑 川底の地図
流れの下になった家 伊興は土地が高いから
二十四戸の村に二十戸の移転 神社も移転
移転は第一次世界大戦の年 農民の心情は
移転して分教場に
- 5 葛飾・墨田あたり
編入されたりなくなったりした村 コロで引いてきた家
買収ときいて寝込んでしまった 消えた木下小学校
立ちのいた宝蔵寺 「寺の前」の家も立ちのき
立ちのいた牛たち 「役場の家」の移転
木下川薬師の場合 上木下川の村と立ちのき
万福寺と下木下川の村 白髭神社
- 6 一路海へ
消えた江戸川の平井小学校・松川小学校 千葉街道の四股
最後は何もなくなって 農業をあきらめて大工に
老婆の述懐 最後の立ちのき
裁判のその後

5 ● 工事と人びとのくらし

- 1 荒川放水路工事
- 2 流域の人びとと放水路工事
少年の目にうつった工事 ドロ汽車の煙で焼けた農家
本木坝 交通を遮断しないで下さい
宮城・小台からの通学 事故にあった人たち
放水路の生き物 文明の灯は二つの川を越えて
ジャリと交換した昼飯 命からがらの行列と土手
土手の仕上げと低地の埋め立て ゆれる浮き橋
管理人の川門さん 千住機械工場と仮船溜
トロツコと機関庫と子どもたち エキスカの響
遠くなった駅 工事で働いた人びとと一日の賃金
震災の時の旧四つ木橋あたり 震災のあとの土手や河川敷
小松川橋とエピソード 放水路下流の水運と閘門
村の分離統合 岩淵水門上流の買収と工事

6 ● 荒川放水路と青山士氏

講演・荒川改修工事に就いて 青山士氏の歩いた道

7 ● 荒川放水路ができあがる

通水式と小さな記念碑 土手の高さ

8 ● 荒川放水路とあゆむ

放水路にできた渡し 子どもの天地
放水路の夏 河川敷に降りた飛行機
土手の草を軍馬のえさに 河川敷にチューリップ
空襲と青空教室 荒川は炎の川であった
食料不足と河川敷の耕作 荒川飛行場と足立第八中学校
河川敷の連合運動会など その後の大水害
さびれる水運と閘門 草刈の碑
新四つ木橋架橋中の事故 旧四つ木橋下手の試掘
釣り船屋の四季 荒川放水路の花火

補章 ● 絹田幸恵さんのことと、 その後の荒川放水路（長谷川敦）

- 1 絹田幸恵さんのこと
『足立史談』での連載 地味派手な人
パーキンソン病に倒れる
- 2 その後の荒川放水路
放水路ではなく放臭路／川はよみがえったか
令和元年東日本台風も持ちこたえた
流域治水で荒川を守る



令和元(2019)年・台風19号による増水から
隅田川流域を守るため閉じた岩淵水門
提供：国土交通省 荒川下流河川事務所